

## 烏山のメダカを守ろう

### 1. まず地域のメダカの生息状況を調べる。

○自分で調べる。

○地域の人にたずねる。

いろいろ方法があります、河川や池や沼などの個人や学校の池などに飼われて生き残っている可能性があります。

調査結果をまとめましょう。

メダカは移動能力が小さく、水系ごとに少しずつ体色や体系などに変化があることがわかっています、現在は、野生のメダカであっても、放流によって地域の純粋な系統とはちがっているおそれがあります。

これについては過去の放流の事実をすべて調べなければわかりません、でなければ遺伝子を調べるという大がかりなことになってしまいます。

地域のメダカの純粋性ということについて、今後の議論が必要かもしれません。

### 2. もし在来のメダカが見つかったら。

まずその生息地を守ることが必要です、継続的に安定して生息している環境なのか、それともどこか別のところから流されてきたのか、調べる必要があります。

メダカが継続的に生息している環境であれば、開発計画はないか、農薬が流れ込んでいないか、ブラックバスがはなされないか、監視しましょう、危険を分散するためには、少数を採取して飼育し増殖することも必要となってきます。

野生に戻すためには、メダカの生息できる環境を増やすこと（これは休耕田や公園の池を使えばできます、学校などに協力してもらう方法もあります）が必要です。

継続的に生息していける環境でなければ、いくら放流してもむだです。

### 3. メダカの生息できる場所づくり。

休耕田などを利用して、メダカ池を作りましょう。休耕田の持ち主（農家）、公園や学校の池にもメダカが生息できるように自治体や教育委員会に働きかけましょう。

そのような場所を少しずつ増やしながらか、野生のメダカの生息できる環境を広げましょう。

昭和30年代ごろまでの水田づくりが、めだかの生息にとって都合がよかったことは明らかです、無農薬はもちろん、冬にも一部に水たまりが残るような環境にすればメダカが冬を越すことができます。

メダカが生息できる環境というのは、他にも多くの生きものにとって大切な環境です、魚では、ドジョウ、タナゴ類、カエルでは、トノサマカエル、ツチガエル、二ホンアカガエル、水生昆虫では、タガメ、ミズカマキリ、ヘイケボタル、ゲンジボタル、などいずれも最近見かけなくなった生きものです、他に、ギンヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネなどのトンボ、サギ類カワセミなどの野鳥も来ます。

### 4. 町民グループでメダカの保護をしよう。

個人でメダカを保全するということは大変労力がかかります、作業を分担しましょう。

学校での取り組みにも、地域の町民が加わることで先生が転勤で替わっても活動・情報が継続します。

メダカの生息環境を守るということは、要するに昔ながらの水田づくりで、休耕田

をメダカ池にできないか、ただ水が絶えないことが必要なので、農業用水しかない場合には秋から春にかけての水源の確保が必要になります。

地域の在来メダカを飼育して守る運動にも、多くの人が分担することで、危険が分散されるメリットがあります。

#### 5. 放流についての考え方。

離れた地域で捕獲された他の水系のメダカやペットショップなどで手に入れたメダカを放流すると、その場所に在来のメダカと交雑がおこってしまう恐れがあります。

メダカ（に限らず動植物）の放流は、地域の自然生態系に悪影響与えるため、避けるべきです。

その地域で絶滅していた場合には、どう考えたら良いか、その水系の野生のメダカの子孫でないことが明らかであれば、生息環境を整えたうえで放流することは問題が少ないかもしれませんが、同じ場所を取れたものの子孫はかまわないのなら、少し離れた場所ならどうか、いろいろな考え方があり、結論を出すのは難しいと思います、専門家を交えて議論を重ねることが必要だと思います。

ただ、そこまで行けば大変なもので、今はまだ、生息環境をどう守るかの段階です。

#### 6. メダカのいる自然環境の大切さを多くの人に伝える。

メダカはちっぽけで、経済的価値もないのに、メダカに心ひかれる人がとても多いのです、それはどうしてなのでしょう、私たち日本人の心に染めついた郷愁、古い記憶、文化といったものに結びついているのかもしれませんが、でも、いまの子どもたちにとっては、メダカは身近かな生きものでなく、水槽やテレビや本でしか見たことのない生きものになってしまったのです。

メダカの危機はもしかすると子どもたちが育つ環境の危機かもしれません、メダカを通じて私たちは多くのことを学ぶことができます。

メダカのいる環境の大切さに気付いたら、そのことを多くの人たちに伝えてください、昔のことを知っている人は子どもたちに生きものにあふれていたかつての水辺の姿を伝えてください、そしてよりよい未来のための一歩をあなたも踏み出してください、子どもたちとともに。

#### 7. 自分で育てた在来のメダカをよそにあげたりあずける場合の注意。

飼育者が変わったり、ゆずる場合、次のことを伝えてください。

★最初にどこかでいつ取れたのか（産地）

★市販のメダカ、他のメダカと一緒に飼わないこと

★放流しないこと